

防災教育の目標を構成する語句の 語彙分析と概念分類

田中 敏 (信州大学)

キーワード：防災教育，教育目標分類，語彙分析

目 的

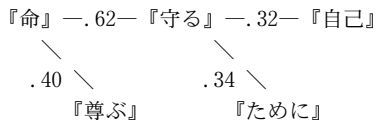
防災教育の目標は文部科学省 (2013) の参考資料では、1) 知識，思考・判断，2) 危険予測・主体的な行動，3) 社会貢献，支援者の基盤，の3つにまとめられている。そのような目標を達成するために児童生徒側ではどんな能力・資質が必要なのかを明らかにし，目標分類体系をつくることを本研究は試みる。このため授業事例等から教育目標を表す文を収集し，その語彙形式と概念内容について分析と分類を試みた。

方 法

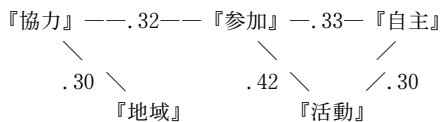
対象 小中学校の防災教育に関する1027件の報告や授業案・手引き等の公開されている資料や情報から，事例間・学区内で共通のものと文部科学省 (2013) の記述を引用したものを除いた588文を分析対象とした。

手順 目標文を形態素に分析し，動詞等の活用形や類義語をグループ化した101個の異なり語句

a. 自己



b. 地域



『人々』 0.31—『他』 0.41—『マップ』

c. 自然・災害

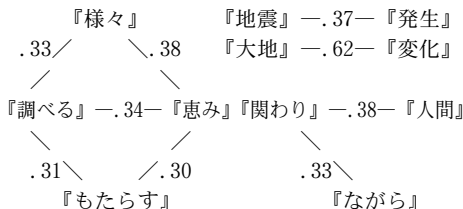


図1 異なり語句の関連図式

注) 数値は単一ペアのφ係数 (N=588)。

3変数以上の間のφ係数は調整されていない。

を得た。たとえば異なり語句の『地域』は，一つの語句グループの見出し語であり，それと置き換え可能な同義語・類義語『地方』『社会』などを代表する (他の例は図1参照)。

これらの異なり語句のそれぞれが，各目標文のなかに含まれていれば1，含まれていなければ0をその語句に与え，このデータから異なり語句同士の連関係数を算出し，共起関係を調べた。

結果と考察

連関係数0.30以上に注目し，異なり語句同士の関連性を概念内容から解釈した結果，主に『自己』に関連する内容a (『命』『守る』)，『地域』に関連する内容b (『協力』『参加』)，災害・自然の『もたらす』『大地』『変化』などを『様々』『調べる』内容cが見いだされた (図1参照)。

また，他の連関する語句は，児童生徒の能力・資質の発達段階として基礎／応用／実践に分けて並べられるようにみえる。下は段階分けの一例である (数値はφ係数，N=588)。

基礎段階

『心』 0.44—『育てる』 0.77—『もつ』
『態度』 0.45—『養う』 0.53—『通して』

応用段階

『意識』 0.51—『高める』 0.58—『判断』

実践段階

『話』 0.51—『合う』 0.34—『備える』

以上より，防災教育における教育目標構造は，実践上の観点から自己／地域／災害・自然と，知識／技術／態度と，基礎／応用／実践とを組み合わせた，授業内容a b c (3) ×能力・資質の領域 (3) ×能力・資質の発達段階 (3) の分類体系に基づくことが現実的であると考えられる。

引用文献

文部科学省 (2013). 学校防災のための参考資料・「生きる力」を育む防災教育の展開
http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1289310.htm

※本研究は科研費25285244 (研究代表者，田中敏) の助成によるものである。